

令和4年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 神戸市中央区下山手通5-10-1
管理機関名 兵庫県教育委員会
代表者名 教育長 西上 三鶴

令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和3年4月1日(契約締結日)～ 令和4年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 兵庫県立村岡高等学校
学校長名 牧野 徹
類型 地域魅力化型

3 研究開発名 ちいき大好きプロジェクト～郷土愛を育む「村岡メソッド」の開発～

4 研究開発概要

地域活性の核として、高校の拠点機能を強化し、地域における「人づくりネットワーク」の構築を図る。その上で、地域課題の解決等に資する学習を官民学協働で体系的に実施し、生徒の郷土愛を育み、「地域を育てる学力」を形成する。また、本事業の評価及び卒業生の就職状況調査を分析し、その取組の具体的な検証と評価方法を開発する。

5 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している ・ 開設していない
- ・教育課程の特例の活用 活用している ・ 活用していない

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
飯塚知香子	兵庫県企画県民部地域創生局企画参事	関係行政機関
西田 利也	兵庫県教育委員会高校教育課長	関係行政機関
今井 雄治	香美町副町長	関係行政機関
川戸 英明	香美町企画課長	関係行政機関
清水 幸信	香美町教育委員会教育総務課長	関係行政機関

山根 俊喜	鳥取大学副学長	学識経験者
横山 真弓	兵庫県立大学教授	学識経験者
西村 功	村岡区自治会長	地域住民
入江 善博	入江産業代表取締役	地域住民

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
兵庫県教育委員会高校教育課	課長 西田 利也
香美町教育委員会教育総務課	副課長 山田 貴広
香美町企画課	副課長 今西 勝彦
兵庫県立村岡高等学校	校長 牧野 徹
兵庫県立村岡高等学校同窓会	会長 西村 芳和
鳥取大学地域学部	教授 筒井 一伸
NPO 法人 TUKULU	代表 松岡 大悟
うづかの森 (民間企業)	代表 西村 昌樹
やまもり村岡 (民間団体)	代表 上田 治

8 カリキュラム開発専門家、地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	筒井 一伸	鳥取大学地域学部教授	都度依頼・謝礼支払い
地域協働学習支援員	高橋 大蔵	香美町地域おこし協力隊	香美町企画課・ 会計年度任用職員

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会 コンソーシアム連携協議会	組織		開催				開催					開催
カリキュラム開発 専門家							研修		研修			研修
地域協働学習支援員	 本校担当として常勤で支援											

(2) 実績の説明

活動日程	活動内容
令和3年4月15日	運営指導委員会、コンソーシアムを組織
令和3年6月29日	第1回会議 ・申請の経緯、事業方針を説明し、今後の事業内容に対し指導助言 ・会議日程について協議

令和3年10月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間、地域探求発表会（本校体育館）」にて本校生徒のプレゼンテーション、ポスターセッション、実演、体験等を見学・助言 第2回会議（アンケート形式） ・発表内容や生徒の取組について、アンケート形式にて指導助言 ・村高フォーラム2021での基調講演「国際的・芸術的・文化的アプローチによる地域活性」とパネルディスカッション「地域と学校『教育のまち』を創る」を自由参観・助言
令和4年3月8日	<ul style="list-style-type: none"> 「総合的な探究の時間」発表会をオンラインで開催し、発表会を見学 第3回会議 ・今年度の取組について、成果・評価・課題を総括・指導助言 ・来年度の取組について、概要を説明し、協力体制について打合せ

- ・コンソーシアム及び運営指導委員会に担当指導主事を派遣し、大学・企業・関係機関等の専門家と意見交換を図りながら、事業の成果と評価をもとに指導・助言を行った。
- ・コロナ禍における、オンライン実施での指導・助言等を行った。
- ・国費に加え、県事業「県立高校特色づくり推進事業（インスパイア・ハイスクール）」にて追加予算を行い、より充実した取組を支援した。
- ・事業終了後、本事業の取組を持続可能なものにするために一定の事業経費を計上し、支援する予定。

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校設定科目 地域創造系の探究活動	→											
学校設定科目 アウトドアスポーツ系の探究活動	→											
総合的な探究の時間 「村高発地域元気化プロジェクト」	→											

(2) 実績の説明

① 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

ア 地域創造系の探究活動

「自然や暮らし（地域資源）を活かした観光・レクリエーション産業の活性化」、
「安心して暮らせるまちづくり」をテーマに、香美町の実情を把握し、高校生の視点で新たな価値観を見だし、課題解決する学びを通して「地域を育てる学力」を系統的に高める。

《地域学入門（1学年）テーマ「地域を知る」》

- ・オリエンテーション、導入 4月
- ・水生昆虫調査（講義、実習）地元講師 西田昭夫氏 6、7月

- ・海洋生物、地層調査（講義、スノーケリング、シーカヤック実習）
地元講師 本庄四郎氏 8月
- ・獣被害について（講義）兵庫県立大学 教授 横山真弓氏 8月
- ・但馬の植生調査（講義、調査）地元講師 菅村定昌氏 6、8月
- ・但馬の地質調査（講義、実習）地元講師 古藤尚氏 6月 三木武夫氏 7月
- ・村岡の歴史調査（講義、実習）地元講師 石松崇氏 10、11月
- ・「地域探求・総合的な探究の時間発表会」におけるプレゼンテーション、ポスターセッションに向けた原稿・ポスター作成、発表準備 10月
- ・テーマ「SDGsによる持続可能な地域を目指して」講義、プレゼンテーション 講師 鳥取大学地域学部 講師 石山雄貴氏 9、1～3月

《地域探求Ⅰ（2学年）テーマ「地域を深める」》

- ・オリエンテーション 4月
- ・テーマ「マーケティングを活用した地域づくり」
講師 鳥取大学地域学部 講師 白石秀壽氏
- ・研修合宿を日帰り研修に変更し、徳島県上勝町で研修を実施 8月
地域資源の活用およびゴミ削減、リサイクル等の環境活動による地域活性化、地域づくりを学び、マーケティング手法を活用した地域づくりの方策を考える。
- ・「地域探求・総合的な探究の時間発表会」におけるプレゼンテーション、ポスターセッションに向けた原稿・ポスター作成、発表準備 10月
- ・現地調査、プレゼンテーション、ワークショップ、講義等により地域活性のテーマを協議 9～3月

《地域探求Ⅱ（3学年）テーマ「地域を創る」》

- 国際的・芸術的・文化的アプローチによる地域活性「石碑（石造物）を巡る香美の旅」 講師 鳥取大学地域学部 助教授 ギンナン・アレクサンダー氏
 - ・ワークショップ、プレゼンテーション等により、DVD作成についての企画やテーマ設定等について協議 5～7月
 - ・動画撮影（班別活動） 7～8月
 - ・「地域探求・総合的な探究の時間発表会」におけるプレゼンテーション、ポスターセッションに向けた原稿・ポスター作成、発表準備 10月
 - ・動画編集についての研修
講師 芸術文化観光専門職大学 准教授 藤本悠氏 11月
 - ・DVD作成 11～12月
- 卒業論文「私の地域活性化プラン」原稿作成、校正（生徒に担当教員が指導）
7～1月

《地域創造系全体の取組》

- 地域創造系夏季調査実習（総合的な探究の時間とリンク）8～9月
集落の魅力発信プロジェクト「むらの風景 vol 4～小代区の魅力発見～」におけるインタビュー調査を行う。
講師 鳥取大学地域学部教授 筒井一伸氏
協力アドバイザー
香美町役場小代地域局長 上田和章氏
カリキュラム開発専門家：鳥取大学地域学部教授 筒井一伸氏
- 地域探求講演会（町長講演会）8月
香美町（地域）の代表者に現状と課題を講演し、「地域に学び地域と協働する

学校づくり」についてグループ討議を行う。

講師 香美町長 浜上勇人氏

助言者 鳥取大学地域学部准教授 塩沢健一氏

- c 「地域探求・総合的な探究の時間発表会」におけるプレゼンテーション、ポスターセッションに向けた原稿・ポスター作成等の発表準備 9～10月

イ アウトドアスポーツ系の探究活動

「自然や暮らし（地域資源）を活かした観光・レクリエーション産業の活性化」を目指し、地域固有のレクリエーション資源（自然）を学び、アウトドアスポーツの魅力が伝えられるリーダー育成に必要な知識・技術を身に付けるとともに、アウトドアスポーツイベントの運営に必要な知識・手法を学び、香美町教育委員会・民間企業等と連携した企画を立案、実施するなど、より実践的な学びを行う。

《地域学入門（1学年）》

テーマ「地域資源を活かしたアウトドアスポーツ体験」「スポーツ基礎理論と実践」

- a スポーツと身体機能について（柔道整復学、理学療法学、鍼灸学、スポーツ外国語） 6、10、11月 講師 履正社医療スポーツ専門学校職員
- b アウトドアスポーツ体験 地元講師 西垣幸造氏 7、10～1月
- c 「地域探求・総合的な探究の時間発表会」におけるプレゼンテーション、ポスターセッションに向けた原稿・ポスター作成、発表準備 9～10月
- d 栄養学 みかしほ学園日本調理製菓専門学校講師 12月
- e 来年度の探究テーマについて講義と協議
講師 鳥取大学地域学部准教授 関 耕二氏 1～2月

《地域スポーツⅠ（2学年）》

テーマ「オリエンテーリングの普及および教育的効果」

- a オリエンテーリング講習（コース設計、リハーサル）
講師 香美町教育委員会 田中利彦氏 井上昌輝氏 5～7月、10月
- b 土曜チャレンジ学習事業
参加児童を対象としたオリエンテーリング体験 9月
- c 「地域探求・総合的な探究の時間発表会」におけるプレゼンテーション・ポスターセッション・体験活動に向けた原稿・ポスター作成等の発表準備 9～10月
- d 地元小中学生へオリエンテーリングの普及活動 11月
- e 報告書作成 12～2月

《地域スポーツⅡ（3学年）》

テーマ「健康づくりと地域活性（介護予防体操による身体機能改善）」

- a 介護予防体操による身体機能改善の進め方 6、11月
講師 鳥取大学地域学部准教授 関耕二氏
- b 介護予防体操創作、確認・検証、動画撮影 6～7月
- c 指導者講習会 7、11月
- d 「地域探求・総合的な探究の時間発表会」におけるプレゼンテーション・ポスターセッションに向けた原稿、ポスター作成等の発表準備 9～10月
- e DVD、テキスト作成 11～1月

f 報告書作成 12～1月

《アウトドアスポーツ系全体の取組（総合スポーツ学）》

- a 冒険教育 テーマ「地域の自然を活かしたスポーツインストラクター資格取得」
 - ・ツリーイング、キャンプ、レクリエーション、クライミング、ラペリング等の体験、指導実習
 - 地元講師 西垣幸造氏、とちのき村講師 森井勇希氏他 5～11月
- b 地域スポーツ テーマ「地域の自然環境を活かしたスポーツの技術習得」
 - ・ゴルフ、スキー、スノーボード、スノーシュー、クロスカントリースキー
 - 地元講師 井上直樹氏他 5～2月
- c 「地域探求・総合的な探究の時間発表会」におけるプレゼンテーション・ポスターセッションに向けた原稿、ポスター作成等の発表準備 10月
- d 土曜チャレンジ学習事業（香美町教育委員会事業）
 - シャワークライミング、オリエンテーリング、ボルダリング 指導補助
 - 7～12月

《全校生徒の取組》

総合的な探究の時間「村高発地域元気化プロジェクト」の探究活動

生徒同志が議論して改善・充実を図っていきけるよう、学年を越えた全校生徒を、興味・関心にもとづいて8班に分け、「自然と暮らし（地域資源）を活かした観光・レクリエーション産業の活性化」「安心して暮らせるまちづくり」をテーマとして、班毎に課題解決に向けた地域協働活動に取り組む。

- a 民芸班：「南中ソーラン」の介護予防体操版の作成し、映像化する。
- b 吹奏楽班：音楽を通して地域との交流を深め、地域になくてはならない吹奏楽団を目指す。
- c 食文化班：「村岡米」など地元食材を活用した高校目線でのレシピを提案し、情報発信することにより地域経済を盛り上げ活性化につなげる。
- d 環境A班：うへ山棚田の保全、土壌調査及び観光資源としての研究と棚田米の広報。地滑り対策と後継者対策動画協力。
- e 環境B班：地域の森林環境保全に繋がる取組を行う。間伐材の有効活用（木の駅プロジェクト）と協力。
- f 地域福祉班：高齢化、子育て支援についての調査を行い、世代を超えた交流を目指す。冬期には独居老人宅や公共道路の除雪活動を行う。
- g 紙漉班：「射添紙でつなごう村岡から世界へ」をテーマに紙漉き体験を通じて地域の魅力を発信し、地域の認知度を上げ地域魅力化につなげる。
- h 集落調査班：小規模集落の魅力を再発見する調査、魅力発信（コロナ禍により対象を若者へ変更）。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

- ・地域創造系 学校設定教科 地域探求
 - 学校設定科目 地域学入門（1年）地域探求Ⅰ（2年）
 - 地域探求Ⅱ（3年）
- ・アウトドアスポーツ系 学校設定教科 地域探求
 - 学校設定科目 地域学入門（1年）地域スポーツⅠ（2年）
 - 地域スポーツⅡ（3年）

学校設定教科 総合スポーツ学（2、3年）

学校設定科目 冒険教育 生涯スポーツ スポーツ実践

・全校生徒 学校設定教科 協働のまちづくり（1年）総合的な探究の時間（2、3年）

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科横断的な学習とする取組について

ア 協働のまちづくり（1年総合的な探究の時間）総合的な探究の時間（2、3年）

名称「村高発地域元気化プロジェクト」全校生1単位

- ・学校設定教科「地域探求」での地域との協働による探究的な学びと「総合的な探究の時間」（村高発 地域元気化プロジェクト）を密接に連携させ教科横断的に展開することにより、さらに効果的なものとする。
- ・地域課題の解決に向けた探究活動を効果的に進めていくためには、各教科で学習する知識を身に付け、活用することが求められるが、教科の学びを単独ではなく、互いに関連付け、総合的に活用する力を育成する。
- ・各教科・学校設定教科「地域探求」での活動を「総合的な探究の時間」（村高発 地域元気化プロジェクト）と連携させて計画・実行・検証することにより探究活動を多面的に捉え、分析する学びに発展させることにつなげる。

イ 学校設定教科「表現」学校設定科目「スピーチ」3年生選択科目2単位

- ・高校生が生涯をとおして、主体的に生涯の生活を設定し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を考えるとともに、各教科の学びを紐付けながら自分の言葉で表現できるようにする。
- ・Society5.0、人生100年時代における、地域と自分の姿を想定することにより、地域の未来を創造し、キャリアプランニング能力を育てる。

④ 類型毎の趣旨に応じた取組について

ア 地域住民への広報

- ・「地域探求・総合的な探究の時間発表会」でのプレゼンテーション、ポスターセッション
- ・土曜チャレンジ学習事業でのオリエンテーリング、クライミング、ボルダリング等の普及
- ・「村高だより」（学校通信）を毎月発行し、関連小中学校、地域局、村岡区含む全区長、地域の公共施設や商店へ配布及び掲示（約500部）
- ・HPでのブログ等により、本校の授業や学校行事、特色ある取組を発信

イ 他校生徒、地域住民、学識経験者等との交流、地域の魅力を再認識、資質向上

- ・「村高フォーラム2021」での講演会、パネルディスカッションを実施
コロナ禍のため基調講演をオンラインで実施。パネルディスカッションは町内から海外まで12名の卒業生をオンラインでつなぎ「地域と学校/『教育のまちを創る』」をテーマに協議
- ・地域探求講演会（町長講演会）において「香美町のまちづくり」の講演会を実施し、小中学校統廃合のメリット・デメリットについてグループ討議を行い、鳥取大学准教授より指導助言
- ・合宿にかえり日帰りによる「地元資源」活用による地域活性化について研修
- ・「HYOGO×WKC フォーラム高校生SDGsフォーラム探求発表会2021」へのプレゼンテーション発表と動画公開において参加
- ・「第3回但馬地区高校生フォーラム」でのプレゼンテーション発表とパネルディス

カッション参加

ウ その他

- ・「ヒーローインタビュー」(類型の卒業生インタビュー)による、本校の教育活動、事業の認知、協力に関する意見交換

⑤成果の普及方法・実績について

- ・地域創造系1～3年生及び総合的な探究の時間「集落調査班」が集落の魅力発信プロジェクト「むらの風景 vol 4～小代区の魅力発見～」を調査、編集、発行し地域へ配布
- ・地域創造系3年生地域探求Ⅱにおいて、国際的・芸術的・文化的アプローチによる地域活性として、「石碑(石造物)を巡る香美の旅」のDVD・テキストを作成し発信
- ・アウトドアスポーツ系3年生が地域スポーツⅡにおいて「介護予防体操～南中ソールン編～」のDVD・テキスト作成し配布
各地区の指導者を対象に講習会を実施
- ・卒業論文「私の地域活性化プラン」の作成、町への提言・発信
- ・「村岡高校の探求の歩み～村岡協働物語～」(仮称)を鳥取大学地域学部と共編し発行、発信
- ・「全国高校生マイプロジェクトアワード2021」参加

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

(1) 本構想において実現する成果目標の設定(アウトカム)

- ・地域をよくするために、地域における問題にかかわりたいと思う生徒の割合
2年目目標値70% 2年目実績75.2%
- ・高校卒業後、いずれは地元で働きたいと希望する生徒の割合
2年目目標値60% 2年目実績67.1%
- ・高校卒業後、地元で貢献したいと思う生徒の割合
2年目目標値70% 2年目実績81.2%

(2) 地域人材を育成する高校としての活動指標(アウトプット)

- ・外部講師(大学教授、地元企業、地域住民等研究者)による授業回数、研修回数
2年目目標値70回 2年目実績115回
- ・地域課題について研究の取組を発表する機会
2年目目標値7回 2年目実績10回

(3) 地域人材を育成する地域としての活動指標(アウトプット)

- ・コンソーシアムの構成団体数
2年目目標値8団体 2年目実績10団体

<添付資料>目標設定シート

1.2 次年度以降の課題及び改善点

(1) 課題

- ・コロナ禍の状況において、地域への発信や発表会、他校や先進校との交流が難しく実施出来なかった。
- ・地域イベントの中止等により、地域との協働や活性化する活動を探究し実践する「総合的な探究の時間」が2年連続で校内活動に終始せざるを得ない班もあった。計画していた校

外の探究活動が不十分な活動となった。

- ・本校の既存の活動から更に活動を発展させるために必要な、コンソーシアム・外部指導者の拡大やカリキュラム開発に取り組むことが、時間的に不十分であった。
- ・少子化が加速し生徒募集の難しい状況が続いている。本校の取組の成果や生徒の成長について、地域や保護者等への効果的な広報や幼小中学生との交流・活動を効果的に行う必要がある。

(2) 改善点

- ・ウィズコロナにおいて、今まで蓄積したICT等の会議システムやコミュニケーションツールの研修と積極的活用により、オンラインによる探究活動、発表会や交流の体制をさらに充実させる。また、「Instagram」「Facebook」「YouTube」による発信を行う。
- ・感染症対策を徹底したフィールドワークや協働活動において、環境に左右されない実施方法を模索し、生徒の内発的動機付けによる自己決定能力の育成を中心とした探究活動をさらに確立させる。
- ・香美町役場職員、カリキュラム開発専門家と地域協働学習実施指導員等との連携を密にし、卒業生・地域・団体等との連携と知見の集約を図るために地域（校外）のコーディネーター体制を確立させ、まちづくりを通じた人と人との連携を図る「人づくりネットワーク」を進める。
- ・コンソーシアムを拡充させた「人づくりネットワーク」の開発を進めるために、教育コーディネーター体制の持続的な確立を目指す。そして、地域の関係人口拡大のために、「ヒーローインタビュー」等による卒業生をはじめとする人・地域・企業・大学との連携をさらに深め、学校のカリキュラムを更に充実させるために、地域活性化策を活かした探究活動を中心に据えたカリキュラム編成を確立させる。それら全ての過程において、生徒の進路実現を図り、学校の特色・魅力化をさらに推進する。
- ・地域や住民への更なる理解を促すために、地元幼小中学校との連携をさらに密にするとともに、本校生徒の学びによる成長を共有できるような情報発信を行う。

【担当者】

担当課	兵庫県教育委員会事務局 高校教育課	TEL	078-362-3817
氏名	堂阪博文	FAX	078-362-4288
職名	指導主事	e-mail	Hirofumi_Dousaka@pref.hyogo.lg.jp